

平成 2 5 年 度 自 己 評 価 書

学校名	美祢市立麦川小学校		
校長名	校長 磯部 孝志		
自己評価実施日	実施日 平成25年11月27日		
回収率	児童	39名 97.5%	教職員 10名 100%
	保護者	40名 100%	地域住民 5名 100%

教育目標		かかわり合いをとおして、夢に向かってがんばる子ども						
重点目標 (P計画)	重点目標	① 個に応じた基礎学力の定着 個に応じた基礎学力の定着を図る授業づくり ○すすんで毎日読書をしよう (チャレンジ目標)		② 心の安心づくり 思いやりの心を育む教育活動とたて割班活動の実践 ○大きな声で自分からあいさつをしよう (チャレンジ目標)		③ 保護者・地域との連携 課題を共有し、協働して解決していく組織体制の機能化		
	数値目標 (P計画)	○三者(児童・保護者・教員)による授業評価3.5以上、学校評価アンケート肯定率85%以上 ○評価テスト(知識・理解、技能、読み、言語事項等)80点以上80% ○年間一人一回以上の研究授業及び自主公開授業 ○チャレンジ目標達成率100%		○チャレンジ目標「大きな声で自分からあいさつをしよう」の自己評価ポイントにより、にこちゃんマーク掲示80%以上 ○児童による自己評価3.5以上 ○学校評価「思いやりの心に係る項目:道徳」肯定率90%以上		○家庭学習時間(学年×10分)達成率80% ○生活アンケート 睡眠8時間以上80%ゲーム、テレビ視聴2時間以内100% ○地域人材、自然の活用 学年1回以上活用 ○幼小、小中連携		
1	取組の状況 (P計画) (D実践)	○「むぎ」「が」「わ」「パワー」「ふる」と「教えて考えさせて定着させる授業」とを統合させた授業への取組 ○三者と地域住民による授業評価の実施(参観日や学校評価アンケート)と結果分析及び授業改善 ○朝学習の実施と家庭での予習・復習による基礎学力の定着 ○単元評価テストの実施と結果分析及び指導 ○全児童の個人カルテ作成と指導・支援 ○「やまぐち学習支援プログラム」を活用した個別指導 ○研究授業及び自主公開授業の実施と授業力の向上 ○読書記録の作成及び月ごとの達成状況の把握による読書活動の推進(読書ノートへの記録、読書タイムの確保、図書委員会による啓発、家庭での読書活動の推進)		○チャレンジ目標「大きな声で自分からあいさつをしよう」の自己評価ポイント制によるにこちゃんマーク掲示(企画委員会) ○あいさつ運動の推進(企画委員会) ○アンケートを基にした教育相談及び相談結果に基づく生徒指導 ○児童理解の会等において全校指導体制を確立 ○縦割班活動や委員会活動等のリーダーの育成 ○道徳教育及び道徳の授業の充実 ○教育環境の整備と充実		○「まっこのまなび」配布 ○生活アンケートの実施・活用 ○チャレンジ目標の振り返り ○学校、学級たより等による保護者との連携、啓発 ○地域人材の活用及び地域見守り隊、育友会との連携、「地域連携コーナー」設置工夫による活動報告		
2	目標の達成状況 (C評価)	肯定率	教職員 100%	保護者 82.5%	教職員 100%	保護者 88.1%	教職員 100%	保護者 93.1%
			児童 92.3%	地域 %	児童 94.2%	地域 100%	児童 91%	地域 90%
		数値目標の達成状況	児童による授業評価3.9 教員による授業評価3.75 保護者による授業評価3.2 評価テスト80点以上 84.6% 授業公開100% チャレンジ目標達成率50%		にこちゃんマーク掲示76.3% 児童の自己目標3.5以上3.6 思いやり肯定率90%以上 児童89.7% 保護者87.5% 教員100%		家庭学習時間達成率85% 睡眠時間8時間以上100% テレビゲーム視聴時間2時間以内88% 地域人材活用100% 幼小中連携100%	
3	取組の適切さの検証結果 (C評価)	基礎学力が定着してきた。個々の学力差への支援が必要。予習・復習が定着してきた。帰宅後の生活習慣には個別指導が必要。複式指導の解消や自主的・主体的な学習が必要。		児童主体の活動ができた。児童アンケートを活かしたいじめ対応ができた。リーダー育成・人間関係づくりの意識の向上が図られた。花壇や掲示の環境が充実した。		まっ子見直し週間・チャレンジ目標カードの成果がある。見守り隊との連携により児童の安全意識が高まった。地域人材の活用・連携コーナーの掲示・学校便りでの発信等連携が広がった		
4	改善方策 (A改善)	予習・復習の定着を図るために家庭と連携。サマースクールなど個に応じた支援をする。複式指導の単式化に努める。ガイド役の指導。読書活動の推進に向けて指導を継続する。		全校体制のいじめ対応を継続。道徳や縦割班活動での思いやりの心を育む教育活動を実践し、児童の主体的な活動を奨励する。心温まる豊かな言語環境を整備する。		家庭連携の取組の工夫。まっ子見直し週間・チャレンジカードの継続。幼小中・地域・保護者と課題の共有と協働の取組(コミュニティ・スクールに向けて)		
重点目標以外の気づき		・地域の教育支援を教育活動の中に積極的に取り入れるようになった。 ・AFPYに対して保護者はとても好意的であり、今後も活用していきたい。						
学校関係者評価に必要な資料		○学校要覧 ○学校だより ○授業評価結果 ○参観日アンケート ○綱紀保持研修一覧表						